

## 平成29年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

平成30年3月25日現在

研究課題名	中世スラヴテキスト分析の方法研究:テキスト間影響関係からのアプローチ				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	三谷 恵子		東京大学人文社会系研究科・教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	三谷 恵子	東京大学人文社会系研究科・教授	スラヴ語学	スラヴ文献学
	2	服部 文昭	京都大学・人間・環境研究科・教授	ロシア語史	ロシア文献学

## 研究成果の概要

スラヴ中世テキストの多くは、ビザンツあるいは西欧からの翻訳として成立した。ここに含まれる聖書とその註釈書、キリスト教会の教父らによる教訓的説話、聖人伝、アポクリファなどは、その性質からしてもともと相互に関係しており、聖書正典を中心にひとつの文学的ネットワークを形成していた。スラヴ世界でのこれらのテキスト関係は、翻訳とコピーの繰り返しの中で複雑化し、さらにテキストが伝播する間に他のテキストからの影響で変転していった。スラヴ世界の近年の文献研究は個別のテキストの言語的、また内容的分析において充実してきたが、諸テキストの複雑な関係を解きほぐす研究は未だ十分に進んでいない。本研究では、こうしたテキスト間の影響関係をいかにして明らかにするか、その方法論を模索し、意見交換を行った。具体的には、2017年10月15日に上智大学で開催された日本ロシア文学会全国大会でパネル発表を行い、2018年3月7日には北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターでセミナーを開催した。

10月15日のパネルでは『起源と写本の間 中世スラヴ文献におけるテキスト間関係』と題し、本プロジェクト経費で招聘したロシア科学アカデミー会員のアレクサンドル・モルドバン博士、服部文昭氏、三谷がそれぞれ研究発表を行った。モルドバン氏は『神学者グリゴリーによる16の言葉』の中の写本系譜をギリシャ語原典と比較して論じ、服部氏は『ボリスとグレープの物語』の3系統のテキストとそこに引用された福音書アブラコスの異同から、ボリスとグレープの『物語』『講話』『年代記版』の新旧関係を論じた。三谷は『使徒ペテロとアンデレの野蛮人の町への伝道物語』のスラヴ写本を比較し写本の系譜関係を明らかにした。

## 研究成果の概要（続き）

これらの発表を通して、あるテキストとその起源となるテキスト、あるいは写本とその原本、また写本同士の間を示すためには、個々の写本同士を詳細に比較すること、その際そこに現れる文法特徴（古教会スラヴ語のより古い形式たとえば語根アオリストの使用、仮定法助動詞の形式など）

**研究成果の概要（続き）**

や使用語彙（モラヴィズムを始め語彙の地域変種の現れ方）、聖書の引用形式などに注目しなどからテキストや写本の系譜関係を探っていくことが必須であることが確認された。また写本の作られた年代が必ずしも写本の新旧関係を示さないという事実も再認識された。

さらに 2018 年 3 月 7 日には、本プロジェクト経費により米国アメリカン・パブリック・ユニヴァーシティ・アソシエーション講師のリュビツァ・ヨヴァノヴィチ博士を招聘し、スラブ・ユーラシア研究センターでセミナーを開催した。セミナーでは『中世スラヴ文学における通テキスト性 (Transtextuality in Medieval Slavonic Literature)』と題して、さまざまなレベルのテキスト間関係を包括する概念である G. ジュネットの「通テキスト性 (Transtextuality)」を導入し、この視点から中世スラヴテキストの研究方法について議論した。具体的には、三谷は「中世スラヴ文学におけるテキスト間関連性の重要性：“偽パタラのメトディオスの黙示録”と“十二の金曜日の物語”」、ヨヴァノヴィチ氏は「キュリロスとメトディオスのプロジェクト：中世南スラヴ文学における彼らの翻訳の意義」と題した発表を行った。三谷の研究では、シリア起源でビザンツからスラヴ世界に伝播した『偽メトディオスの予言書』と、起源不明のスラヴ版『十二の金曜日の物語』を比較し、両テキストの構造的類似および表現の共通性から、前者が後者の形成に深く関わっていたと推測した。またヨヴァノヴィチ博士は、中世スラヴ文学研究の基本的問題点を指摘し、さらに『キュリロス一代記』がキュリロスのスラヴ伝道の思想をよく反映したものであることをその構造と内容から論じた。

**主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。**

**論文**

*Митани К.* Лингвистический и текстологический анализ славянских списков повествования «Деяния апостолов Петра и Андрея в стране варваров» // Труды института русского языка им. В.В.Виноградова. Лингвистическое источниковедение и история русского языка. 2018. (掲載予定) (謝辞有)

**学会発表**

*Хаттори Ф.* Новозаветные цитаты в «Сказании и страдании и похвале святым мученикам Борису и Глебу». 日本ロシア文学学会全国大会, 2017 年 10 月 15 日上智大学。(謝辞無)

*Митани К.* Лингвистический и текстологический анализ славянских списков повествования «Деяния апостолов Петра и Андрея в стране варваров». 同上。(謝辞無)

*Keiko Mitani.* Significance of Textual Transcendence in Medieval Slavonic Literature. *Apocalypse of Pseudo - Methodius and the Story about the Twelve Fridays.* Transtextuality in Medieval Slavonic Literature. Seminar. March 7-9 in Sapporo-Tokyo, 2018. 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター, 2018 年 3 月 7 日。(謝辞有)

**当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）**

なし。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。